

会 議 録	
会 議 名	令和4年度第3回丸亀市総合教育会議
開催日時	令和4年10月31日(月) 13:30~14:45
開催場所	丸亀市役所3階303・304会議室
出席者	<p>出席委員 松永恭二（市長）、末澤康彦（教育長）、徳永秀文、松岡舟、福田康知、井下由美（以上敬称略）</p> <p>事務局 市長公室長 山地幸夫 （市長公室秘書政策課）課長 窪田徹也、政策マネジメント室長 高倉鋭悟、大川智</p> <p>市出席者 教育部長 七座武史 （教育部総務課）課長 吉野隆志、副課長 土井節子 （教育部学校教育課）課長 岩井俊明、副課長 横山友亮</p>
議 題	<p>(1) 不登校児童生徒の現状について【非公開】</p> <p>(2) これからの不登校児童生徒への対応について</p>
傍聴者	0人
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	<p>ただ今から令和4年度第3回丸亀市総合教育会議を開会します。本日の協議事項は、「(1) 不登校児童生徒の現状について」「(2) これからの不登校児童生徒への対応について」の2件です。なお、協議事項(1)については、非公表である不登校児童生徒数を取り扱うため、非公開となっておりますので、会議資料の取り扱いには十分ご注意ください。</p> <p>また、本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し、会議を記録しますので、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用し、発言するようお願いいたします。</p> <p>それでは、会議の進行については、市長よりお願いいたします。</p>
松永市長	<p>不登校児童生徒については、近年増加傾向にあり、丸亀市としても今後取り組んでいかなければならない課題の一つであることから、今回議題に挙げさせていただきました。本日は、教育委員の皆さんに不登校児童生徒の現状及び本市の対応などをまずは知っていただき、ご意見等いただきたいと思っております。それでは、協議事項(1)「不登校児童生徒の現状について」事務局より説明をお願いします。</p>
松永市長	<p style="text-align: center;">【非公開】</p> <p>それでは議題(2)「これからの不登校児童生徒への対応について」事務局より説明をお願いします。</p>

横山副課長	<資料に基づいて説明>
松永市長	ただ今の事務局の説明に関しまして、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。
末澤教育長	各学校において、不登校児童生徒数の増加を大きな学校課題の一つとして捉え取り組んでいますが、不登校となる原因やきっかけがはっきりと分からないことから対応に苦慮しているのが現状です。こうした現状を踏まえ、今後の方向性や対応についてご意見をいただきたいと思っています。
福田委員	小学校低学年の不登校児童が増加している原因としては、コロナ禍の影響により子ども同士や教員などと接する機会が減少し、人間関係が希薄になりつつあることが関係していると思います。人間関係が確立できない状況に対し、子どもたちが不安に感じているのではないのでしょうか。
松永市長	校内相談体制の整備について教えてください。
横山副課長	各学校において、不登校予測資料を活用し、不登校が予測される子どもがいることを学年団や管理職と共有し全体で把握することで、家庭訪問や関係機関との連携など、該当する子どもへの適切な支援につなげる相談体制を構築しています。
松永市長	子どもが安心して相談できる体制づくりに努めていただきたいと思います。 また、NPO 法人グランマールとの連携について、スクールカウンセラーの関わり方、スクールソーシャルワーカーの体制について教えてください。
横山副課長	丸亀市独自の取組である巡回カウンセリングを実施していますが、回数に限りがあるので、もっと相談したいという要望があった場合は、グランマールにつなぐことがあります。 スクールカウンセラーについては、県の事業を活用しながら拠点校に配置し、各学校に派遣しています。スクールカウンセラーが学校を訪問する際は、子どもと保護者宛の文書でお知らせするなど対応しているところです。 スクールソーシャルワーカーについては、これまで実質2名で取り組んでいましたが、学校からのニーズが増加している現状に鑑み、令和4年度よりソーシャルワーカー協会から紹介いただいた方を1名増員し、3名体制で取り組んでいます。
末澤教育長	不登校児童生徒の背景には、家庭の中など、教員が入りにくいケースが多くあります。スクールソーシャルワーカーには、家庭訪問を通じた関係の構築など、不登校児童生徒が学校に来てもらえるよう取り組んでいただいています。

井下委員	<p>スクールカウンセラーが来校するお知らせがあっても差し迫った状況でないと中々相談しないのではないのでしょうか。</p>
横山副課長	<p>スクールカウンセラーは拠点校に常時配置されていないことから、いつでも相談できる体制とはなっていませんが、スクールカウンセラーの来校を早めにお知らせするなど運用を工夫して取り組んでいるところです。緊急を要する場合は、丸亀市教育委員会内のスクールカウンセラーを派遣するなどの対応をしています。</p>
福田委員	<p>スクールカウンセラー8名で充足しているのでしょうか。</p>
横山副課長	<p>必要な時に相談できるかの観点から考えますと、もう少し増やす必要があるのではないかと感じています。</p>
松岡委員	<p>子どもから学校に行きたくないと突然言われた時に保護者も困ると思います。不登校になる前の子どもの接し方などの予備知識があれば良いのではないのでしょうか。</p>
末澤教育長	<p>子ども一人ひとりの背景やきっかけが違うので、一概に対処方法を教えることは難しいと思います。時間的な制約がある中ですが、学校が子どもや保護者との関係作りをしっかりと行い、対応していくのが一番大切だと感じています。</p>
松岡委員	<p>困りごとがきっかけとなり、子どもの成長につながるのであれば、それが一番だと思います。また、教員だけではなく、スクールカウンセラーなど第三者に安心して相談できる環境が充実していることはすごくありがたいと感じています。</p> <p>話は変わりますが、友遊に入るのが難しいという話をお聞きました。友遊も広くはないので、多くの子どもを受け入れることは難しいと思いますので、他県の事例のようにデイサービスセンターなどに通うと出席扱いとする場所を、中学校区ごとに作ることは難しいのでしょうか。</p>
横山副課長	<p>友遊に入るのが難しいということはありません。保護者の意向や本人の意思をしっかりとカウンセリングし、相談しながら支援計画を考えた上で対応しています。学校からの説明に一部誤解を与えたようであれば、友遊の意義も含めて保護者に理解していただけるよう引き続き努めてまいります。</p>
末澤教育長	<p>子どもたちの社会的な自立が大きな目標であり、児童生徒の最善の利益を最優先に支援を行うことが求められていると思います。その利益の中に含まれている学びの保証などが担保できるのであれば、フリースクールやデイサービスでの教育活動も選択肢に入るのではないかと思います。</p>

松岡委員	私も社会的に自立することが最終目標だと思っています。学校はいろいろな要素がそろっていると思いますが、フリースクールやデイサービスセンターなどで足りない要素を地域などで補い、社会的自立に向けて必要なことを学べる環境が整った場所も必要ではないかと思っています。
松永市長	学校現場では教員が毎日忙殺され、子どもと接する機会が少なくなっている印象を持っていますが、教員の数を増やすことはできないのでしょうか。
末澤教育長	教員の配置は法律で決まっており、状況によって加配措置がされているという状況です。20年前から教員数は大きく変わっていませんが、学校に求められているものが以前より増えていることから、子どもと教員の接する時間が減少していると考えています。
松永市長	丸亀市が市費講師を増員し配置することで、教員が子どもと向き合う時間が増えるのでしょうか。
末澤教育長	市費講師を増やすだけでなく、教員自身の意識を変えていくとともに、業務の適正化に向けて保護者や地域にご理解いただくことも必要だと考えています。
徳永委員	<p>不登校児童生徒は非常に難しい問題で、私自身も整理しきれていませんが、ただ確実にいえることは、不登校やいじめられている子どもに対して、アンケートに基づく相談活動をしたり、ケース会を設けたりと、どの学校も本当によく対応していると思います。</p> <p>松岡委員のご意見の関連でほとんどの場合、不登校の子どもに視点を当てて対応を考えますが、少しのきっかけで誰しもが不登校になるという事実を知っていただくなど、保護者への対応についても考えていく必要があると思います。</p> <p>丸亀市では、楽しい学校・学級づくりを学校教育方針の柱に掲げ、子どもたちにアンケートを実施していますが、9割を超える子どもがとても楽しい、楽しいと回答しています。一方で、不登校児童生徒がなぜ増えているのかを考えると、学力の二極化と同時に心の二極化が進み、楽しいと思っている子どもたちは積極的に楽しむことができているが、そうでない子どもが増えてきているのではないかと、四半世紀前と比べ不登校児童生徒の割合が全国的に増加傾向にあることから言えると思います。</p> <p>四半世紀前は、不登校のことを登校拒否と呼んでおり、学校に行きたくないという子どもを学校に半強制的に連れていく試みもありましたが、現在は子どもをまずは受け入れることが考え方の主流となるとともに、コロナの影響も相まって、無理に学校に行かなくても良いという風潮になっているのも事実です。こうした風潮の中で、どう対応すれば良いのかを考えると、友遊のような教育支援センターを充実させると同時に、各地域に同様の支援センターを配置するなど子どもが通いやすい環境を整えることも重要ではないかと感じています。</p>

松永市長	私としては、教員が子どもと接する時間を確保するために加配や市費の教員を確保すること、松岡委員や徳永委員のご意見にあった友遊のような支援センターを増やすことを考えましたが、教育委員会はどう思いますか。
岩井課長	教員数が増えれば子どもと向き合う時間が増えると思いますので、有効な措置だと考えます。また、不登校児童生徒が増加している現状に鑑みますと、友遊のような場所を増やすことも重要ではありますが、人や場所、その他様々な課題がありますので、慎重に検討を重ねていく必要があると思います。
井下委員	コロナの影響により、保護者同士のコミュニケーションが減少し、子どもの話をする機会も減っていると思います。保護者同士の関わりの部分も子どもに影響を与えると思いますので、コミュニケーションを取れる機会が増えていけば良いと感じています。
福田委員	教員と子どもの人間関係を構築することが重要だと考えています。子どもが悩みを抱え込む前に、教員に気軽に相談できる体制を整えることが不登校を防げるのではないかと考えています。
末澤教育長	先日、松岡委員から失敗を嫌がる子どもたちの話をお聞きしました。ゲームに埋没し、実生活での失敗を嫌がるのであれば、せめて学校にいる間は、失敗したり、チャレンジしたりできる十分な教育活動を確保するとともに、教員がゆとりを持って子どもたちを迎え入れる環境を整えることが重要であるのご意見を聞いて思いました。
松永市長	他に、委員の皆様や事務局より何かご意見等ございますか。 <特になし>
松永市長	参考になるご意見ありがとうございました。本日の議題はこれで終了いたします。

(会議終了)